

平成24年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

にんじゃっ子キャンプ

平成24年9月29日(土)～30日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

小学校低学年の子どもたちが、親元を離れた共同宿泊体験や自然の中での活動体験をすることで、社会性の基礎となる基本的な生活習慣を身につけ、自立への基盤を養う。

2. 事業の概要

(1) 開催日

平成24年9月29日(土)～30日(日)

(2) 募集人員・参加者

参加対象 小学校1・2年生

募集人員 30名

応募者 83名

参加決定 抽選

参加者 36名

(岡山市15名 倉敷市10名 真庭市3名 津山市2名
高梁市 2名 吉備中央町2名 浅口市1名 瀬戸内市1名)

(3) 講師等

ボランティア 15名

ツリーイング指導 3名

藤原 基勝(ツリーイング指導:遊木皆)

西谷 由紀(ツリーイング指導:遊木皆)

長瀬 えみ(ツリーイング指導:遊木皆)

(4) 企画・運営のポイント

- ①事前研修により、活動フィールドの实地踏査や生活面で配慮する点などをボランティア全員が事前に共通理解した上で、当日の運営に臨んだ。
- ②各活動を「忍術」と表現することで修行するというイメージをもたせ、興味関心をもって取り組めるようにした。カラー軍手やはちまきなどをつけて活動するようにし、修行をしているという雰囲気づくりに努めた。
- ③修行の最後に参加者全員が行う活動(大縄跳び)を行い、参加者全員で達成感を味わったり記録に挑戦することで個々の自信を高めたりしようとした。
- ④生活習慣確立の素地づくりとするため、「ひとり立ちの術」と称して、衣食住に関わる基本的な活動を意識させて行動できるようにした。

⑤事前に、保護者の協力を得てにんじゃっ子キャンプでがんばる目標を親子で考え、その成果や今後の生活でがんばることを巻物に書き留めた。また「認定証」を渡し、活動への充足感をもたせた。「早寝、早起き、朝ごはん」事業と関連づけ保護者に資料を配付し、規則正しい生活を行うことを促したり、「早寝早起き朝ごはんガイド」の中のカレンダーを活用して巻物に書留めがんばることを継続できるようにしたりした。

3. 活動の内容等

(1) 日程等

9月29日(土)		9月30日(日)	
* 現地集合			
10:00	受付	6:15	ひとり立ちの術(起床・洗顔・清掃)
10:30	かかわりの術(開会式・交流レク)	7:15	朝のつどい
12:00	ひとり立ちの術(昼食)	7:30	ひとり立ちの術(朝食)
13:30	水渡りの術 木登りの術	8:30	活動準備
17:15	タベのつどい	9:00	見極めの術
17:30	ひとり立ちの術(夕食)	12:00	ひとり立ちの術(昼食)
18:30	ひとり立ちの術(入浴)	13:00	アンケート ふりかえり他
20:30	ひとり立ちの術(就寝)	14:00	かかわりの術(閉会式)
		* 現地解散	

(2) 活動の状況



【木登りの術】



【木登りの術】



【水渡りの術】



【水渡りの術】



【カプラ】



【カプラ】



【食事】



【歯磨き】



【シーツ敷き】

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・事前研修で、参加児童の配慮事項や緊急時における対応を共通理解し、実地踏査によるフィールドの確認を実施したため、参加者の安全面を十分に把握することができた。また、班担当ボランティアについては、経験のあるボランティアと新規加入ボランティアをペアにすることで、スキルアップの機会を設けた。
- ・最後に「みんなでジャンプ」という共通の目標をクリアする場面を設定した。自分たちが設定した目標回数を大きく超えることができ一体感が生まれるとともに自信にもつながり良かった。
- ・最後に、保護者に子どものがんばりや成長を伝える場面を設定した。ボランティアには、子どもをよりしっかり見ようとする意識が生まれた。子どもには、がんばりが認められ自信につながった。また保護者には、子どもを預けた不安感が安心感に変わったり子どもの普段と違う一面が見られたりすることができた。

(2) 参加者の声

- ・ロープのぼりは、みんなが小さく見えて楽しかった。(木登りの術)
- ・数を数えたりジャンプをしたりすることが楽しかった。(みんなでジャンプ)
- ・ウーリーをさがせ(館内オリエンテーション)でみんなできょうりよくできた。
- ・きれいなものも食べることができた。(ひとり立ちの術)
- ・ふとんをたたんだりちょうちょむすびができるようになったりした。(ひとり立ちの術)

(3) 今後の課題など

- ・施設ボランティアの参画事業と位置づけ、ボランティアの資質を高めるために運営・指導ボランティアを中心に運営することねらっていた。しかし、役割分担を明確にできず、特に運営では分担内容の伝達不足から、ボランティアが何をどこまで支援するのか不明瞭となった。ボランティアの役割分担を明確して、確実なスキルアップをねらいたい。
- ・子どもたちを集団化し共同生活を行うために、ルールの徹底や気持ちを切り替えさせることがうまくいかず、最後まで甘えが目立つ子どもが少なくなかった。集団生活をしていく上で最低限必要な目標は、「おきて」として絶えず確認をして（「人の話は聞くべし」・「仲間のことを考えるべし」・「思いっきり楽しむべし」）、集団そのものの規律や人間関係を保っていきたい。
- ・子どもに活動を通して身につけさせたいものを明確して、それを子どもに伝える工夫をしていかなければならないと感じた。特にひとり立ちの術では、それぞれの生活の場面で、身につけること・がんばることを掲示するなどして参加者に活動させていきたい。

担当：企画指導専門職 飯石 浩二